

ブルガリアが生んだ歌姫、デイミトロヴァ、逝く



彼女に電話しようと思っていた矢先の訃報で、当初は「死因不明」となっていたが、関係者の話では膵臓癌だったようだ。64歳という若さで、これからたくさんの若手を育てて欲しいと思っていたのに、残念だ。

1941年5月6日、ブルガリア

で生まれたゲーナ・デイミトロヴァは、25歳の時《ナブッコ》のアビガイツレ役でデビューした。49歳の時、最愛の夫をやはり癌で亡くしている。

その少し前のスカラ座の来日公演で、筆者は初めて、彼女の《トゥー

ランドット》をライブで聴いたのだが、最後部席にまで直線的に届いてくる声にただただ驚いた。カラフ役のマルティヌッチと抱き合う時、彼が階段を数段昇り、やっと抱き締め腕が、背中の中までしか届かない体格も印象的だった。

後進の指導にも力を入れていた。1999年に《ナブッコ》を歌ったスイスのアヴァンシュ野外劇場で、2002年マスターコースを開き、話題になった。ヴェローナの4分の1くらいの大さきのローマ遺跡だが、適度な大きさと抜群の音響で人氣の音楽祭だ。

プライヴェートで会うと、飾らない、気取らない、気さくなオバサ

ンの人柄で、舞台上のカリスマ性を忘れさせてしまう。

筆者が最後に生で聴いたのは、4年ほど前のヴェローナ野外劇場での《ナブッコ》だった。声の弾力性はさすがに衰えてきて、音程的にも危ない部分が多かったが、それにしても、これほどの正統派ドラマテイツクソプラノは彼女をおいて他にいなかった。

(中 東生)